INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/00173

			PCT/J	P00/00173
	SIFICATION OF SUBJECT MATTER		 	-
Int	.Cl ⁷ C23C16/44, H01L2/285			
٠.				
According t	to International Patent Classification (IPC) or to both n	ational classification and IPC		
B. FIELD	S SEARCHED			
Minimum d	ocumentation searched (classification system followed	by classification symbols)		
	H01L21/68	01L21/203-205,		
Jits	tion searched other than minimum documentation to the suyo Shinan Koho 1926-1996 ti Jitsuyo Shinan Koho 1971-2000	e extent that such documents Jitsuyo Shinan Toroku Jitsuyo	Toroku K	oho 1996-2000
Electronic d	lata base consulted during the international search (nam	ne of data base and, where pr	acticable, sea	rch terms used)
C. DOCU	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT			
Category*	Citation of document, with indication, where a	opropriate, of the relevant pa	ssages	Relevant to claim No.
A	JP, 2-228035, A (Hitachi Ltd.)	,		1-12
	11 September, 1990 (11.09.90), Claims; page 2, upper right colu- lower left column, line 18 to page line 9; Fig. 2 (Family: non-	ge 2, lower right	page 2, column,	
A	JP, 9-260469, A (Fujitsu Limite 03 October, 1997 (03.10.97), Claims; column 4, lines 32-35; co 1 (Family: none)	·	1; Fig.	1-12
Α	US, 5494494, A (Anelva Corporat 27 February, 1996 (27.02.96), Claims; column 2, line 60 to co & JP, 2603909, B2, Claims; column 12, line 3; Fig. 2	olumn 3, line 8;	Fig.2 column	1-12
A	JP, 9-36088, A (Nisshin Electri 07 February, 1997 (07.02.97), column 2, lines 19-24 (Fami	lc Co., Ltd.),		1-12
A	JP, 9-115993, (Tokyo Electron I	utd.),	1	1-12
Further	r documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family and	nex.	
* Special categories of cited documents: document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention cannot document of particular relevance; the claimed invention cannot considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone document of particular relevance; the claimed invention cannot considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family Date of the actual completion of the international search "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention cannot considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family				e application but cited to rlying the invention laimed invention cannot be ed to involve an inventive laimed invention cannot be when the document is documents, such skilled in the art amily
25 A	pril, 2000 (25.04.00)	02 May, 2000		
	ailing address of the ISA/ nese Patent Office	Authorized officer		
Facsimile No	o	Telephone No.		





International application No.

PCT/JP00/00173

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
	02 May, 1997 (02.05.97), Claims, column 3, lines 33-36; column 4, lines 10-18; Figs. 1,2	
	& US, 5997651, A	
	·	
	;	
ļ		



PCT.

国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条) [PCT18条、PCT規則43、44]

出願人又は代理人 の書類記号 99S1027P	今後の手続き			告の送付通知様式(PCT/ISA/220) を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP00/00173	国際出願日(日.月.年)	17.01.	0 0	優先日 (日.月.年) 18.01.99
出願人 (氏名又は名称) 東京エレク	トロン株式会社			
国際調査機関が作成したこの国際調査 この写しは国際事務局にも送付される		見則第41条(I	PCT18\$	条)の規定に従い出願人に送付する。
この国際調査報告は、全部で3	ページである	5.		
この調査報告に引用された先行技	技術文献の写し	ら添付されてい	いる。	
1. 国際調査報告の基礎 a. 言語は、下記に示す場合を除く この国際調査機関に提出さ				
b. この国際出願は、ヌクレオチ〕 □ この国際出願に含まれる書			らり、次の酢	配列表に基づき国際調査を行った。
この国際出願と共に提出さ	れたフレキシブ	ルディスクに	よる配列表	•
出願後に、この国際調査機				
出願後に、この国際調査機				上人配列表
				示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述
1	た配列とフレキ	シブルディス	クによる配	別表に記録した配列が同一である旨の陳述
2. 請求の範囲の一部の調査が	『できない(第]	[欄参照)。		
3. 党明の単一性が欠如してい	ゝる(第Ⅱ欄参照	g) 。		
4: 発明の名称は ※ 区 出願	種人が提出した も	っのを承認する		
□ 次に	に示すように国際	祭調査機関が作	成した。	
_				·
5. 要約は 🗓 出願	種人が提出した も	のを承認する).	
国		じした。 ⁾ 出願人	、は、この国	第47条 (PCT規則38.2(b)) の規定により 国際調査報告の発送の日から1カ月以内にこ きる。
6. 要約書とともに公表される図は、 第 3 図とする。 X 出原	百人が示した とも	らりである。		□ なし
		/		<u> </u>

□ 出願人は図を示さなかった。

■ 本図は発明の特徴を一層よく表している。



A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC)	よる分野の分類(国際特	許分類 (IPC)
----------------------------	-------------	-----------

Int. Cl 7 C23C16/44, H01L21/285

調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl C23C14/50, C23C16/44, H01L21/203~205, H01L21/285, H01L21/31, H01L21/68

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報

1926-1996年

日本国公開実用新案公報 1971-2000年

日本国実用新案登録公報 1996-2000年

日本国登録実用新案公報 1994-2000年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

С.	関連す	ると認め	られる又献
引用	文献の		

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	JP,2-228035,A,(株式会社日立製作所),11.9月.1990(11.09.90), 特許請求の範囲,第2頁右上欄第15~19行,第2頁左下欄第18行~同 頁右下欄第9行,第2図, (ファミリーなし)	1~12
A	JP,9-260469,A,(富士通株式会社),3.10月.1997(03.10.97),特許 請求の範囲,第4欄第32~35行,第7欄第37~41行,図1, (ファミリーなし)	1~12

|X| C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日 以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献(理由を付す)
- 「〇」ロ頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに ⇒ よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 25.04.	ο ο 国際調査報告の発送日 0 2.05.00
国際調査機関の名称及びあて先	特許庁審査官(権限のある職員) 宮澤 尚之 4G 9278
日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915	宮澤 尚之
東京都千代田区霞が関三丁目4番3・	号 電話番号 03-3581-1101 内線 3416



C(続き).	関連すると認められる文献	BBN 1				
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号				
A	US,5494494,A,(Anelva Corporation),27.2月.1996(27.02.96), クレーム欄,第2欄第60行〜第3欄第8行,図2, &,JP,2603909,B2,特許請求の範囲,第11欄第46行〜第12欄第3行, 図2	1~12				
А	JP,9-36088,A,(日新電機株式会社),7.2月.1997(07.02.97),第2欄 第19~24行, (ファミリーなし)	1~12				
A	JP,9-115993,A,(東京エレクトロン株式会社),2.5月.1997(02.05.97) 特許請求の範囲,第3欄第33~36行,第4欄第10~18行,図1,図2, &,US5997651,A					
,						
		*				
,						
-		·				
٠.						
٠.						
•		· ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` ` `				
		·				
	-	,				

世界知的所有権機関 国際 事 務 局 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

ЛР



(51) 国際特許分類7

C23C 16/44, H01L 21/285

(11) 国際公開番号 A1

WO00/42235

(43) 国際公開日

2000年7月20日(20.07.00)

(21) 国際出願番号

PCT/JP00/00173

(81) 指定国 KR, SG, US

(22) 国際出願日

2000年1月17日(17.01.00)

添付公開書類

(30) 優先権データ

特願平11/9529

1999年1月18日(18.01.99)

(71) 出願人(米国を除くすべての指定国について)

東京エレクトロン株式会社

(TOKYO ELECTRON LIMITED)[JP/JP]

〒107-8481 東京都港区赤坂五丁目3番6号 Tokyo, (JP)

(72) 発明者;および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ)

田中 澄(TANAKA Sumi)[JP/JP]

〒400-0062 山梨県甲府市池田1-7-34 Yamanashi, (JP)

米田昌剛(YONEDA, Masatake)[JP/JP]

〒409-3866 山梨県中巨摩郡昭和町西条2000

グローブハウス301 Yamanashi, (JP)

(74) 代理人

鈴江武彦, 外(SUZUYE, Takehiko et al.)

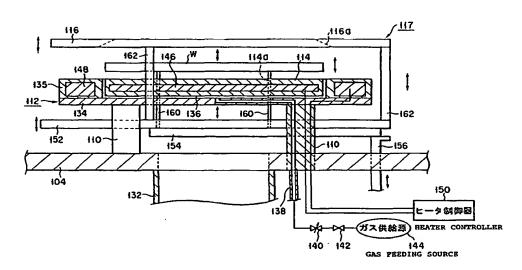
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目7番2号

鈴榮内外國特許法律事務所内 Tokyo, (JP)

国際調査報告書

FILM FORMING DEVICE (54)Title:

(54)発明の名称 成膜装置



(57) Abstract

A film forming device, characterized by comprising a container forming a processing chamber in which an object is processed, a loading table which is provided in the processing chamber and on which the object is loaded, a first heating device which is provided on the loading table and heats the object loaded on the loading table, a first gas feeding part which is provided in the container and feeds into the processing chamber a processing gas for forming a metallic film layer with high melting point on the object loaded on the loading table, a movable clamp holding the object on the loading table by pressing the peripheral part of the object, a second heating device which is formed separately from the clamp and indirectly heats the clamp, a gas flow path formed at least between the clamp and the second heating device when the clamp is moved to a position where it presses the object, and a second gas feed part feeding a back side gas to the gas flow path.

本発明の成膜装置は、対象物が処理される処理室を形成する容器と;処理室内に設けられ、対象物が載置される対象物を加熱を設けられ、載置台に設けられ、載置台に裁しられ、載置台に裁しられ、載置台に設けられ、載置台に設けられ、載置台に設けられ、載置台に設けられ、載置台に設けられ、対象物には大力の加熱を展層を形成するを対象物の周辺とは、対象物を開展して対象物をもとは、クランプを間接的に加速を押圧して対象物をはといったが対象物を押圧をよりのが対象をでは、クランプを関としてが対象を対したで、クランプを関としてが対象をでは、クランプを関として、クランプを関として、クランプを関として、カカランプと第2の加熱装置と、が対ス流路に、少ないが、対ス流路に、シャクサイドガスを流す第2のガス供給部と、を具備することを特徴とする。

PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第一頁に掲載されたPCT加盟国を同定するために使用されるコード(参考情報) アラブ首長国連邦 アンテイグアルバニア アルメニア オーストリア オーストラリア オーストラリア オーストラジャン ボズニア・ヘルツェゴビナ バルバドス ベルギー カザフスタン セントルシア リヒテンシュタイン スリ・ランカ リベリア ロシア スーダン スウェーデン シンガポール ドミニカ アルジェリア エストニア A E A G AL AM AT AU エペイン フィンランド フランス ガボン SG スロヴェニア スロヴァキア ンエラ・レオネ セネガル ŜΚ レント リトアニア ルクセンブルグ ラトヴィア モロッコ モカルドヴィ SL スワジランド チャード トーゴー グルジア ガーナ TD ノルギナ・ファソ ブルガリア ベナン トーコ-タジキスタン トルクメニスタン MD MG セルトット マダガスカル マケドニア旧ユーゴスラヴィア ギーリン・ ギーアン・ ギーアン・ ギーアン・ インドー インドー アーファー アーファー アーファー アーファー トルコ トリニダッド・トバゴ タンザニア ウクライナ ウカア ブラジル ベラルーシ GR BBCCCCCCCCCCCCD 共和国 M L M N M R I D I E 米国 米国 ウズベキスタン ウズベキナム ユーゴースラヴィア 南アフリカ共和国 ジンバブエ MXZELO イスラエル ポルトガル

KR

WO 00/42235 PCT/JP00/00173

1

明 細 書

成膜装置

技術分野

本発明は成膜装置に関する。

技術背景

例えば、MOS(Metal Oxide Semiconductonr)型電界効果トランジスタ構造を有するとCu巻を有するとCu表別の構成材料としてAlとSiとCuを記線層の構成材料としてAlとSiとCuを記線層を半導体ウェハ(以下、単に「ウェハ」と称する。と構成するSiとが相互拡散層が強力をである。とのでででは、Al合金中にSiを添加しての微性にSiを添加している。は、上記のようにAl合金中にSiを添加しての微性にないないない。というクト抵抗が上昇するといいないが、Al合金中のSiが上でのおいないが、Al合金中のSiが上である。ともはに伴い、Al合金中のSiが上であるを生じたをないないが、Al合金中のSiを生むがした。

「関題が生じる。そこで、上述した基板のSiと配線層のAlとの反応を防止し、pn接合の発生を防止している。

バリアメタル層の構成材料としては、最近では、従来用いられていたW合金やWなどよりも反応性が低く、熱などに対して非常に安定した性質を示すTiNやTi-WなどのTi合金、あるいは、Tiが採用されている。

また、最近、Si基板の段差部での膜の被着状態、すなわ

ち、ステップカバレージを向上させるために、スパッタリング装置に代えてCVD(Chemical Vapor Deposition)装置がバリアメタル層を形成する成膜装置として使用されており、例えばTiNから成るバリアメタル層を形成する場合には、熱CVD装置が使用されている。しかし、TiN層を成膜する処理(成膜)ガスは、従来のW合金膜層等を成膜する処理ガスに比べて成膜速度の温度依存性が高いので、W合金膜層等を成膜する熱CVD装置のように、載置台上のウェハの周縁部をクランプで保持すると、ウェハ周縁部の熱がクランプに吸熱されて基板の温度分布が不均一になり、均一なバリアメタル層を形成することが困難

である。そこで、TiN膜層を成膜する熱CVD装置では、

図6Aに示すように、クランプを用いずに、ウェハWを載置

台10上に単に載置して成膜処理を施している。

しかしながら、上記熱CVD装置では、ウェハWが載置台10上に置かれているだけなので、図6Aに示すように、ウェハWの上面だけではなくその周囲にもTiN膜層12が形成されてしまう。バリアメタル層の成膜後には、一般的にバリアメタル層12上に金属膜(配線層)11が成膜されるとともにその金属膜11を平坦化する処理が行われるが、半導体装置の超微細化および超多層化に伴って金属膜11の平坦度を高める必要があることから、かかる平坦化をCMP(化学機械研磨)処理によって行うことが求められている。しかし、CMP処理によりウェハW上面の金属膜11の平坦化を行うと、図6Bに示すように、ウェハWの周囲に形成された

WO 00/42235 PCT/JP00/00173

3

TiN膜層12が除去されずに残ってしまう。すなわち、バリアメタル層12の上に成膜させた金属膜11を平坦化した後に除去できない膜がウェハWの周囲に残存してしまう。その結果、この残存する周囲の膜が後処理を行う処理室内で剥がれ落ちてコンタミネーションの原因となり、歩留りの低下を招く。

また、例えばプラズマエッチング処理により金属膜の平坦化を行えば、この平坦化と同時にウェハWの周囲のTiN膜層12も除去されるが、プラズマを厳密に制御するには限界があるので、金属膜の平坦度を高めることは困難である。 発明の開示

本発明の目的は、処理対象物の周縁部が処理ガスに曝されることなく、処理対象物の処理面全面の温度分布を均一に維持することができる成膜装置を提供することにある。

前記目的は以下の成膜装置によって達成される。すなわち、この成膜装置は、対象物が処理される処理室を形成する容器と;処理室内に設けられ、対象物が載置される対象物を加熱するための第1の加熱装置と;容器に設けられ、載置台上に載置された対象物に高融点金属膜層を形成するための処理ガスを興度を形成するための側線を押圧して対象物を載置台上に保持する移動可能なクランプと別体に形成され、クランプを間接的に加熱するための第2の加熱装置と、クランプと第2の加熱装置との間に

WO 00/42235 PCT/JP00/00173

4

形成されるガス流路と;ガス流路にバックサイドガスを流す 第2のガス供給部と;を具備することを特徴とする。

上記構成によれば、対象物の押圧時に、対象物の周縁部にクランプが密着して、対象物の処理面(上面)と側部との間がクランプにより遮られるとともに、バックサイドガスが防止されるので、対象物の処理面に供給される処理ガスが対象物の処理面に供給される処理ガスが対象物の処理面に供給される処理ガスが対象物の金属と対象物のの番点を最小で高融点を高いまり生じるパーティクルの発生を最小限に上めることができる。また、クランプは、加熱源からの輻射熱をことができる。な成膜処理を施すことができる。

また、ガス流路が、クランプによって押圧される対象物の 周縁部と載置台の周囲とを通過するように延びている場合に は、処理ガスが対象物の周囲に到達しなくなるので、対象物 の側部に高融点金属膜層が形成されることを防止できる。さ らに、対象物の周囲への処理ガスの回り込みを防止するため には、バックサイドガスがクランプの外周方向に排出される ようにガス流路を構成することが好ましい。

また、対象物の側部への高融点金属膜層の付着を確実に防止するためには、バックサイドガスとして不活性ガスを採用することが好ましい。さらに、処理室内に放出されたバックサイドガスの成膜処理に与える影響を軽減するためには、バ

PCT/JP00/00173

ックサイドガスとして、処理ガスを構成するガス成分の一部と同一のガスを採用することが好ましい。また、載置台の形状や配管設備等の関係でガス流路の長さが短くなり、ガス流路に所定のコンダクタンスを確保できない場合には、ガス流路にガス流路のコンダクタンスを調整するバッファ部を介装することが好ましい。

クランプをリング状に形成し、クランプの内側の周縁部で対象物を全周にわたって押圧するようにすれば、対象物の全周を確実に押圧することができ、対象物の周囲と処理室内できる。また、対象物を押圧するクランプの内側周縁部に対象物と線接触するテーパ面を対象物とりにがあると、テーパ面で対象物を押圧した際にガス流路の気密性が高まり、対象物の周囲への高融点金属膜層の付着をさらに確実に防止できる。また、テーパ面で対象物を押圧すると、対象物が載置台上にある程度ずれて載置された場合でも、対象物が載置台上にある程度ずれて載置された場合できる。

なお、本発明は、TiまたはTi合金から成る高融点金属膜層を成膜する場合のように、被処理体の温度分布の均一性が特に要求される場合に適用することにより、より効果を奏することができる。

図面の簡単な説明

図1は、本発明が適用される熱CVD装置を有する処理装置の概略的な平面図:

図2は、図1の熱CVD装置の概略的な断面図;

図3は、図2の熱CVD装置の載置部の概略的な断面図;

図4は、図2の熱CVD装置のウェハの押圧時の載置部の概略的な断面図;

図5は、図4の構成の変形例を示す断面図;

図6Aは、従来の熱CVD装置によってウェハ上にTiN 膜層を介して配線層を形成した際の断面図;

図 6 B は、C M P 処理後のウェハW の状態を示す断面図である。

発明を実施するための最良の形態

以下に添付図面を参照しながら、本発明にかかる成膜装置を熱CVD装置(以下、単に「CVD装置」という。)に適用した好適な実施例について説明する。

(1) 処理装置の構成

まず、図1を参照しながら、本実施例の.CVD装置100 が接続されるクラスタ装置化されたマルチチャンバ型の処理 装置200の構成について説明する。

図示のように、処理装置200は、搬送アーム202が配された共通移載室204を中心として複数の室が放射状に配置されて成る。具体的には、処理装置200は、カセット206と共通移載室204との間でウェハWの受け渡しを行うカセットチャンバ208,210と、ウェハWの予備加熱または成膜処理後の冷却を行う真空予備室212,214と、ウェハWに成膜処理を施す各々略同一に構成されたCVD装置100,216,218,220とが共通移載室204に接続されて成る。

かかる構成により、カセット206内のウェハWは、搬送

アーム202により、カセットチャンバ208,210内と共通移載室204内とを介して真空予備室212内に運ばれて予備加熱された後、CVD装置100,216,218,220に運ばれて、例えばTiNやTiから成るバリアメタル層(高融点金属膜層)の成膜処理が施される。所定の成膜処理が施されたウェハWは、真空予備室214内に運ばれて冷却された後、共通移載室204内とカセットチャンバ208,210内を介して、再びカセット206内に収容される。

(2) CVD装置の構成

次に、図2~図4を参照しながら、本実施例のCVD装置 100の構成について説明する。

(A) CVD装置の全体構成

まず、図2を参照しながら、CVD装置100の全体構成について説明する。CVD装置100の処理室102は、気密な処理容器104内に形成されている。処理室102の側壁には、処理室102内壁面を所定温度に加熱するためのヒータ106が内装されている。さらに、処理容器104上部には、後述のガス供給部118を所定温度に加熱するためのヒータ108が載置されている。また、処理室102内には、支柱110によって支持されている載置部112が配置されており、この載置部112にウェハWを載置する後述の載置台114等(図3参照)が設けられている。なお、載置部112の詳細な構成については、後述する。

また、処理室102内の天井部には、ガス供給部118が 設けられている。ガス供給部118は、いわゆるシャワーへ ッド方式のガス供給装置であり、ガス供給源128から、開 閉バルブ124と流量調整バルブ122とを介して供給される処理ガスを、ガス拡散室120において拡散した後、載置台114と対向する面に形成された多数のガス噴出孔118 aから、処理室102内に均一に供給することが可能である。また、処理室102内の下方部には、処理室102内の下方部には、処理室102内に供給するための真空ポンプ130が排気経路132を対して決されている。かかる構成により、処理室102内に供給された処理ガスは、載置台114上に保持されたウェインの処理面に必要ガスは、載置台114の周囲を均って排気されるので、ウェハwの処理面全面に処理ガスを均一に供給することができ、均一な成膜処理を行うことができる。

(B) 載置部の構成

次に、図3を参照しながら、載置部112の構成についな略 詳細に説明する。載置部112は、ウェハWを載置可能を配い 円板形状の載置台114と、載置台114を囲むようにに配い れる略リング形状の加熱ブロック135とから構成されれには、 のまたは、処理時に、ヒータ制御器150に制 ではなからない。また、加熱ブロック135は、後のであるに、 のと、クラカリコ16を加熱するためのものでは、 のと、クラ制御器150の制御を受ける加熱でしたのでは、 できるゾーンヒータであることが好ましい。このように WO 00/42235 PCT/JP00/00173

9

ゾーンヒータを用いることにより、温度制御性能を向上させることが可能である。

上記載置台114および加熱ブロック135は、複数、例えば3~4本の石英製の支柱(クオーツチューブ)110に支持された支持プレート134上に取り付けられている。また、各支柱110内には、上述の加熱装置146,148に電力や制御信号等を供給する電気配線系の配線、あるいは、後述するように、載置台114およびウェハWの周囲に成膜防止ガスとしてのバックサイドガスを供給するガス供給系の配管などが形成されている。

なお、上記載置台114には、ウェハW用のリフタピン160が昇降可能なピン孔114aがリフタピン160の数に対応して形成されている。複数本、例えば3本のリフタピン160は、昇降するアーム154上に取り付けられており、上記ピン孔114a内を昇降する。また、アーム154は、図示しないアクチュエータにより昇降される昇降軸156に支持されている。すなわち、リフタピン160は、ウェハWを設置台114表面より下方に下がって、ウェハWを載置台114表面に載置する。

さらに、処理室102内には、処理時に載置台114に載置されたウェハWを固定するクランプ機構117が設けられている。このクランプ機構117は、セラミックスや金属、例えばA1Nなどから成り、略リング形状を有するクランプ

部116と、上記載置台114の周囲に配されたクランプ部 116を支持する複数本、例えば3~4本の支柱(リフタピン)162と、該支柱162を支持するリフタピンホルダ152を昇降させる昇降機構(タラマピン・カーを構えている。なお、本実施例においては、クランプ部116を支持するリフタピンホルダ152と、リフタピン160を支持するアーム154とは一体的に構成されているが、図示しないアクチュエータにより昇降軸156を介して一体的に昇降するように構成されているが、リフタピンホルダ152とアーム154とを別々の昇降機構により昇降させるように構成することも可能であることは言うまでもない。

なお、クランプ部116とリフタピン160とを一体的に動作させる場合には、クランプ部116をリフタピン160の先端よりも上方に配する必要がある。かかる構成により、リフタピン160に支持されたウェハWは、下降動作によりを登せる。では、カランプ部1160の下降動作によりクランプ部116によがかける。また、リフタピン160によったりは、カランプされることが可能となる。また、図示しないとががれることが可能となる。また、図示しない搬送のエカには、リフタピン160からウェハWを受け取ったりする際、クランプ部116は、搬入搬出軽の上方に自然に位置するため、搬入搬出動作の邪魔にならない。

次に、クランプ部116の構成について詳細に説明する。

クランプ部116は、すでに説明したように、略リング形とを成しているが、図4に示すように、ウェクランプ部116 の各でに設定されている。具体的には、クランプ部116 の内側の周縁部に、ウェハWの外周縁部と当接可能な、クランに、クランに、クランになり、ウェハWの周縁のに、クランに、大力を表別では、クランにより、可能となる。これにより、大力を表別では、クランに、の動画の音が表別である。ことが可能となる。

次に、バックサイドガス流路について、図3および図4を 参照しながら、詳細に説明する。すでに説明したように、載置台114に載置 されたウェハWをクランプ部116によりクランプするランプの周囲に処理ガスが流れらまないように、プロシースが流れらまないがある。ででででででででいる。でででででででいる。では、プロシーのの処理をある。クランプ部116を加熱では、クランプ部116を加熱では、クランプ部116に効果的且つ効率良く熱でで、クランプ部116に効果的且つ効率良く熱がある。クランプ部116に効果的目の効率良く熱 を伝えることができる。

図3に示すように、バックサイドガス流路は、ガス供給源144から開閉バルブ142と流量調整バルブ140と支柱110内を貫通する配管138とを介して支持プレート134と載置台114との間に形成されたガス流路136に導かれるバックサイドガスが、載置台114の周囲に回り込んだ後に、ウェハWの周囲に導かれ、さらに加熱ブロック135とクランプ部116との間に形成された空間を通って、クランプ部116の外周から抜け出るように、確保される。本実施例によれば、上記のようにバックサイドガス流路を確保することにより、次のような効果を得ることができる。

(a) 載置台114の周囲からウェハWの周囲にバックサイドガスを供給することにより、処理ガスのウェハW周囲への回り込みを防止でき、ウェハW周囲への成膜を防止できる。本実施例によれば、クランプ部116のテーパ面116aとウェハW周囲とが線接触し且つクランプ部116が所定の力で下方に押圧されているため、ある程度の気密性が確保されているが、上記のようにウェハW周囲にバックサイドガスを供給する構成にすれば、クランプ部116のテーパ面116aとウェハW周囲との接触部の気密性が完全でない場合であっても、ウェハW周囲への処理ガスの回り込みを防止できる。

(b) 加熱ブロック135とクランプ部116との間に形成された空間にバックサイドガスを流すので、バックサイドガスが伝熱媒体として作用し、加熱ブロック135からクランプ部116へと速やかに熱伝導が行われる。そのため、ク

WO 00/42235 PCT/JP00/00173

13

ランプ部 1 1 6 を所望の温度に迅速に加熱することが可能となる。

なお、バックサイドガスとしては、処理の種類に応じて各種ガスを採用することが可能であるが、伝熱特性に優れていることと、処理室102内で行われている処理に対して不利な影響を与えない特性を有していることが好ましく、例えばN2 やArなどの不活性ガスを採用することができる。

(3)成膜工程

次に、図2~図4を参照しながら、CVD装置100での 成膜工程について説明する。まず、図3に示すリフタピンホ ルダ152を上昇させて、リフタピン160上にSi基板か ら成るウェハWを載せる。次いで、リフタピンホルダ152 を 降 下 さ せ て 、 ウ ェ ハ W を 載 置 台 1 1 4 上 に 載 置 す る と 同 時 に、クランプ部116によりウェハWの周縁部を押圧する。 また、開閉バルブ142を開放し、流量調整バルブ140の 開度を調整して、ガス供給源144から不活性ガスをガス流 路136内に供給する。不活性ガスは、図4中の矢印で示す 如く、ウェハWの周囲を通過した後に、クランプ部116と 加熱ブロック135との間を通って、クランプ部116の外 周方向に放出される。なお、ガス流路136内に供給される 不活性ガスの流量および圧力は、処理室102内に供給され る処理ガスがガス流路136等に侵入することなく且つ不活 性ガスの放出時に上述した処理室102内の処理ガスの流れ が乱されない流量および圧力に設定されている。

また、ウェハWは、載置台114に内蔵される加熱装置1

46により、例えば400℃~800℃、好ましくは700℃程度に加熱される。一方、クランプ部116は、加熱ブロック135に内蔵される加熱装置148により加熱される。なお、本実施例においては、クランプ部116は、加熱ブロック135と直接接触しているわけではないので、クランプ部116と加熱ブロック135との間に形成されるガス流路136内を流れる不活性ガスを介して間接的に加熱される。

次に、クランプ部116の温度制御について説明する。ウ ェハWの温度は、加熱装置146に設けられた図示しない温 度センサによって検出されており、その温度情報がヒータ制 御器150に入力されている。そして、ヒータ制御器150 は、ウェハWからクランプ部116に逃げる熱分を補償して ウェハWの処理面全面の温度分布が均一になるように、加熱 装置148に設けられた図示しない温度センサからの温度情 報 に 基 づ い て 加 熱 装 置 1 4 8 の 発 熱 量 を 調 整 し 、 ク ラ ン プ 部 116を加熱する。かかる構成により、ウェハWからクラン プ部116に伝達される熱と、クランプ部116からウェハ Wに伝達される熱とが実質的に相殺されるので、ウェハWを クランプ部116で押圧しても、従来のようにウェハWの熱 がクランプ部116を介して逃げることなく、ウェハWの処 理面全面の温度分布を均一に維持することができる。なお、 簡易的な方法としては、加熱装置148に温度センサを設け ずに(加熱装置146のみに温度センサを設け)、常にクラ ンプ部116を載置台114よりも高い温度に保持する(例 えば、クランプ部116の温度を載置台114のそれよりも

常に一定値だけ高く保持したり、クランプ部116の温度を 載置台114のそれよりも高い一定温度に保持する)ことに より、結果的にウェハWの温度を均一にすることも可能であ る。

また、上述したように、本実施例では、加熱装置146, 148として、複数、例えば3つに分割されたヒータかのごといる。従って、上記各ヒータを採用している。従って、上記各ヒータプ部とに独立した温度制御が可能なので、ウェハWやクランのの語度調整を行うことができ、ウェンのの温度分布をさらに地持することができる。からに、上記ゾーンと一タを採用すれば、1つのヒラのででである。なお、1つのヒランとであることができる。なお、ゾーンとを関するヒータの数は、上記数に限定されることなく、構成するヒータの数は、上記数に限定されることなり、機構、成等に応じて適宜任意の数のヒータから成るゾーンも良いことは言うまでもない。

また、処理室102の壁部とガス供給部118は、それぞれに対応するヒータ106,108により、例えば150℃に予め加熱されている。そして、上記諸条件が整った後に、所定流量のTiC14とNH3とから成る処理ガスを処理室102内のウェハW面上に供給すると共に、処理室102内のガスを排気し、処理室102内を所定圧力雰囲気に維持する。これにより、ウェハWにTiNから成るバリアメタル層が形成される。

以上説明したように、本実施例では、クランプ部116に

よるウェハWの押圧時に、不活性ガスがウェハWの周囲を通過するので、ウェハWの周囲に処理ガスが到達することがない。その結果、ウェハWの周囲にTiN膜層が形成されないので、該TiN膜層の剥離に起因するパーティクルの発生を防止できる。また、クランプ部116が所定温度に加熱されるので、ウェハWをクランプ部116で押圧してもウェハWの処理面全面の温度分布を均一に維持することができ、均一なTiN膜層を形成できる。

以上、本発明の好適な実施例について添付図面を参照しな がら説明したが、本発明はかかる構成に限定されるものでは ない。特許請求の範囲に記載された技術的思想の範疇におい ては、当業者であれば、各種の変更例および修正例に想到し 得るものであり、それら変更例および修正例についても本発 明の技術的範囲に属するものと了解される。例えば、上記実 施例では、ガス流路が載置台114の略中心から周縁方向に 向かって形成されているが、本発明はかかる構成に限定され るものではない。例えば、配管等の装置構成上の理由から、 図5に示すように、十分な長さのガス流路300を確保でき ず、所定のコンダクタンスを得ることができない場合には、 所定容量のコンダクタンス調整用のバッファ部302をガス 流路300内に設ければ良い。また、上記実施例では、成膜 防止ガスとして不活性ガスが採用されているが、本発明はか かる構成に限定されるものではなく、例えば処理ガスを構成 するガス成分の一部と同一のガスを成膜防止ガスとして採用 することも可能である。かかる場合には、処理ガスを構成す

WO 00/42235 PCT/JP00/00173

17

るガス成分の一部と同一のガスがクランプを加熱する加速を同一のガスがクランプを加熱する、 したより加熱されて処理室内に放出されるため、Cl2やCに放出される。また、Cl2やない。また、Cl2や路に止めることができる。また、ガス流のたり、カーニングガスをバックサイドガス流を腹でない。ない。ないのではない。ないのではない。ないのではない。ないのではない。ないのではないのではない。などのではないが、本発明はかかる構成に限定されるものではなく、順層を見いて、外のではないが、ないでもる。また、単独にしたが、本発明を適用することができる。

請 求 の 範 囲

1. 対象物が処理される処理室を形成する容器と;

前記処理室内に設けられ、対象物が載置される載置台と;

前記載置台に設けられ、載置台に載置される対象物を加熱するための第1の加熱装置と;

前記容器に設けられ、載置台上に載置された対象物に高融 点金属膜層を形成するための処理ガスを処理室内に供給する 第1のガス供給部と;

対象物の周縁部を押圧して対象物を載置台上に保持する移動可能なクランプと;

クランプと別体に形成され、クランプを間接的に加熱する ための第2の加熱装置と;

クランプが対象物を押圧する位置に移動された際に少なく ともクランプと第2の加熱装置との間に形成されるガス流路 と;

前記ガス流路にバックサイドガスを流す第2のガス供給部と;

を具備することを特徴とする成膜装置。

- 2. 前記ガス流路は、クランプによって押圧される対象物の周縁部と載置台の周囲とを通過するように延びていることを特徴とする請求項1に記載の成膜装置。
- 3. 前記バックサイドガスは、第2の加熱装置からの熱をクランプに伝達する伝熱媒体として作用することを特徴とする請求項1または請求項2に記載の成膜装置。
 - 4. 前記バックサイドガスは、対象物の周縁部に処理ガス

WO 00/42235 PCT/JP00/00173

19

が回り込むことを防止する成膜防止ガスとして作用することを特徴とする請求項1または請求項2に記載の成膜装置。

- 5. 前記バックサイドガスは、対象物の周縁部に付着した膜を除去するクリーニングガスとして作用することを特徴とする請求項1または請求項2に記載の成膜装置。
- 6. 前記バックサイドガスが不活性ガスからなることを特徴とする請求項1に記載の成膜装置。
- 7. 前記バックサイドガスは、処理ガスを構成するガス成分の一部と同一のガスからなることを特徴とする請求項1に記載の成膜装置。
- 8. 前記高融点金属膜層がチタンまたはチタン合金から成ることを特徴とする請求項1に記載の成膜装置。
- 9. 前記ガス流路には、ガス流路のコンダクタンスを調整するためのバッファ部が介装されていることを特徴とする請求項1に記載の成膜装置。
- 10.クランプを介して第2の加熱装置によって加熱される対象物の処理面全面の温度分布が略均一となるように、第2の加熱装置の発熱量を制御する制御部を備えていることを特徴とする請求項1に記載の成膜装置。
- 11.前記クランプは、リング形状を成し、その内側の周縁部で対象物を全周にわたって押圧することを特徴とする請求項1に記載の成膜装置。
- 12.対象物を押圧するクランプの内側周縁部には、対象物と線接触するテーパ面が形成されていることを特徴とする請求項11に記載の成膜装置。

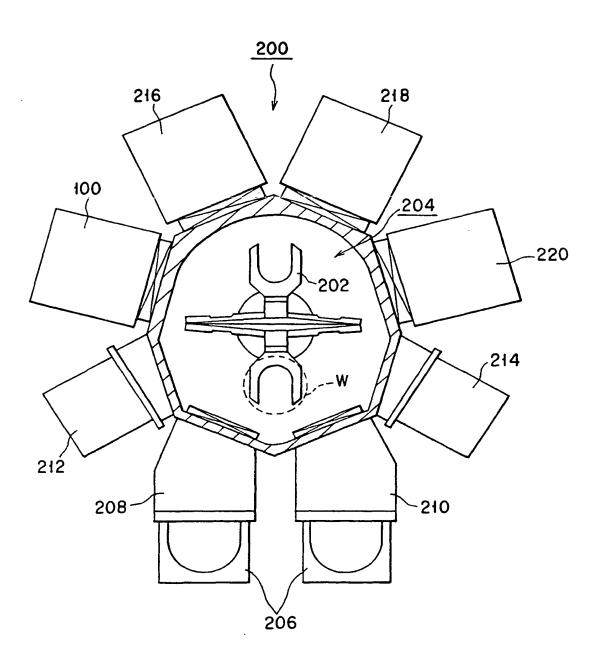


FIG. 1

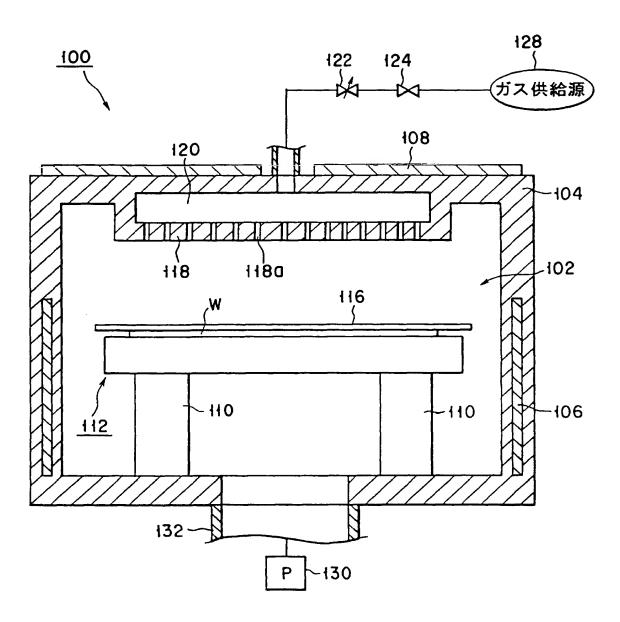
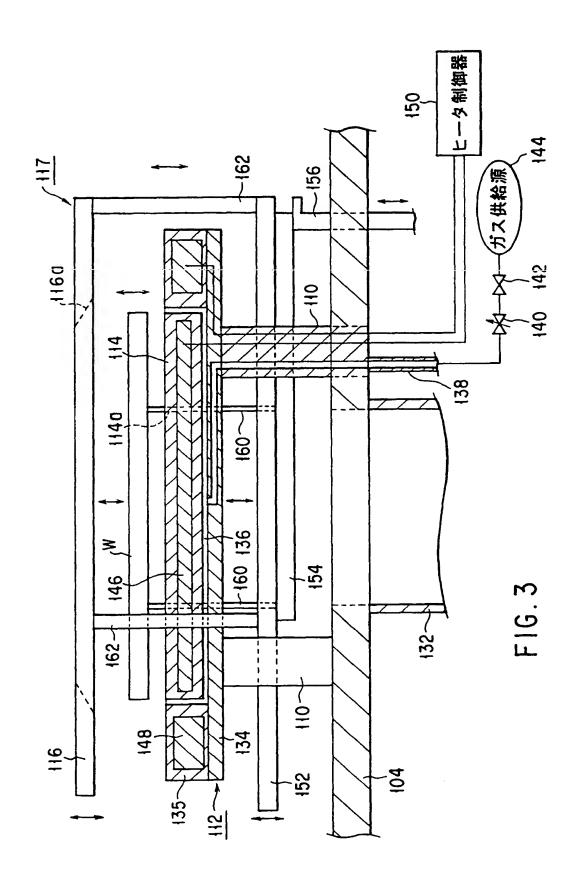


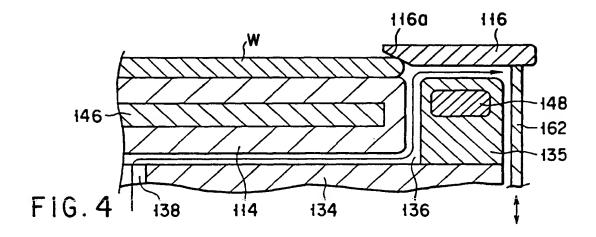
FIG. 2

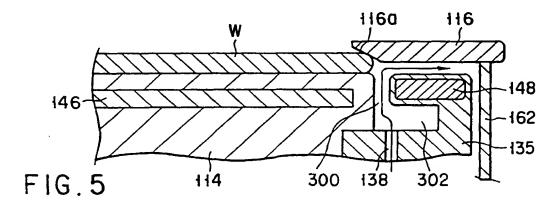
						÷
	••					
						, ,
		,				

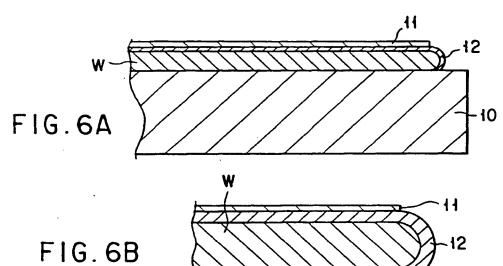


1.7

Ş







45

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/00173

			<u> </u>			
	A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER Int.Cl ⁷ C23C16/44, H01L2/285					
According to	o International Patent Classification (IPC) or to both na	tional classification and IPC				
	SEARCHED					
	Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) Int.Cl ⁷ C23C14/50, C23C16/44, H01L21/203-205, H01L21/285, H01L21/31, H01L21/68					
Jits	Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Jitsuyo Shinan Koho 1926-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2000 Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2000 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2000					
Electronic da	ata base consulted during the international search (nam	e of data base and, where practicable, sear	rch terms used)			
C. DOCUI	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT					
Category*	Citation of document, with indication, where ap	propriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.			
Α	JP, 2-228035, A (Hitachi Ltd.), 11 September, 1990 (11.09.90), Claims; page 2, upper right colu lower left column, line 18 to pag line 9; Fig. 2 (Family: none	mn, lines 15-19; page 2, ge 2, lower right column,	1-12			
A	JP, 9-260469, A (Fujitsu Limited), 03 October, 1997 (03.10.97), Claims; column 4, lines 32-35; column 7, lines 37-41; Fig. 1 (Family: none)					
А	US, 5494494, A (Anelva Corporate 27 February, 1996 (27.02.96), Claims; column 2, line 60 to co & JP, 2603909, B2, Claims; column 12, line 3; Fig. 2	olumn 3, line 8; Fig.2	1-12			
A	JP, 9-36088, A (Nisshin Electri 07 February, 1997 (07.02.97), column 2, lines 19-24 (Famil		1-12			
A	JP, 9-115993, (Tokyo Electron L	td.),	1-12			
Further	documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family annex.				
* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance earlier document but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document of particular relevance; the claimed invention cannot be septial reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed Date of the actual completion of the international search 25 April, 2000 (25.04.00) Date of mailing of the international search report O2 May, 2000 (02.05.00)						
	ailing address of the ISA/ nese Patent Office	Authorized officer Telephone No.				

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/00173

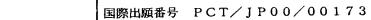
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
, and going	02 May, 1997 (02.05.97), Claims, column 3, lines 33-36; column 4, lines 10-18; Figs. 1,2 & US, 5997651, A	
	·	
133		

Form PCT/ISA/210 (continuation of second sheet) (July 1992)

	国際調査報告	国際出願番号	PCT/JP	00/00173
1 -	選する分野の分類(国際特許分類(IPC)) 23C16/44、H01L21/285			
int. Ci	23C16/ 44, H01L21/ 285			
	うった分野			
· _	最小限資料(国際特許分類(IPC)) 23C14∕50、C23C16∕44、H01L21∕203~2	205, H01L21/285, F	H01L21/31、	H01L21/68
日本国実用新 日本国公開実	トの資料で調査を行った分野に含まれるもの 案公報 1926-1996年 用新案公報 1971-2000年 案登録公報 1996-2000年 用新案公報 1994-2000年	-		
国際調査で使用	用した電子データベース (データベースの名称、 	調査に使用した用語)		
	ると認められる文献		 	
引用文献の カテゴリー*	 引用文献名 及び一部の箇所が関連すると	・きは、その関連する領	新の表示	関連する請求の範囲の番号
A	JP,2-228035,A,(株式会社日立製作所特許請求の範囲,第2頁右上欄第15~1頁右下欄第9行,第2図,(ファミリーなし)	19行,第2頁左下欄	第18行~同	
A	JP,9-260469,A,(富士通株式会社),3 請求の範囲,第4欄第32~35行,第7欄 (ファミリーなし)		0.97),特許	1~12
図 C欄の続き	きにも文献が列挙されている。	□ パテントファ	ミリーに関する	る別紙を参照。
もの 「E」国際出版 以後にな 「L」優先権 日若して 文献 「O」口頭に。	のカテゴリー 車のある文献ではなく、一般的技術水準を示す 質日前の出願または特許であるが、国際出願日 公表されたもの 主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 くは他の特別な理由を確立するために引用する 理由を付す) よる開示、使用、展示等に言及する文献 質日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願	て出願と矛盾で 論の理解のため 「X」特に関連のある の新規性又は近 「Y」特に関連のある	は優先日後に公 とのでするのは をもの用でするのは をはませばでするのは を生まれて を当まれて はなもてと ないと ないと ないと ないと ないと ないと ないと ない	、当該文献のみで発見 考えられるもの 、当該文献と他の11 て自明である組合せる れるもの
国際調査を完善	了した日 25.04.00	国際調査報告の発送に	0 2	.05.00
	D名称及びあて先 国特許庁(ISA/JP)	特許庁審査官(権限の 宮澤 向	かある職員) 尚之	多 4G 927

電話番号 03-3581-1101 内線 3416

郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号



	国際調査報告	国際出願番号 PCT/JP0	0/00173
C (続き) .	関連すると認められる文献		関連する
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するとき	は、その関連する箇所の表示	請求の範囲の番号
A	US,5494494,A,(Anelva Corporation),27.2月.1996(27.02.96), クレーム欄,第2欄第60行〜第3欄第8行,図2, &,JP,2603909,B2,特許請求の範囲,第11欄第46行〜第12欄第3行, 図2		1~12
A	JP,9-36088,A,(日新電機株式会社),7.2月 第19~24行, (ファミリーなし)	.1997(07.02.97),第2欄	1~12
A	JP,9-115993,A,(東京エレクトロン株式会社 特許請求の範囲,第3欄第33~36行,第4欄 &,US5997651,A	比),2.5月.1997(02.05.97) 第10~18行,図1,図2,	1~12
	·		
		,	